

平成 30 年第 415 回信濃町議会定例会 6 月会議 会議録(2 日目)

(平成 30 年 6 月 5 日 午後 1 時 00 分)

●議長 (小林幸雄) それでは、会議を再開いたします。

通告の 3 森山木の実議員。

- 1 病院建設について
- 2 重度身体障害者への介護サービスについて
- 3 町有地の有効活用について

議席番号 9 番・森山木の実議員。

◆ 9 番 (森山木の実) 議席番号 9 番・森山木の実です。質問に先立ちまして、午前中同僚議員の質問の中で、町長の実績について、やりとりがあつて、ちょっと盛り上がったかなと思うんですけども、その中で赤川の処分場問題については、住民の長年の運動と苦労、ご存知だとは思うんですけども、その野尻を中心として、全町に広がったこの運動の上に立っての、町長が最後を締めていただいたと。それは良かったと思えますけれども、忘れないでいただきたいのは、本当に住民が大変な思いをして、反対運動をしてきたという、そのことだけは忘れないでいただきたいと思います。これは最後の実績としては、最後のドアを閉めていただいたと、それは実績として、私達も認めますけれども、ぜひ、住民の苦労を忘れないでいただきたい。野尻の方のためにも、それだけはお伝えしたいと思えます。では、始めたいと思えます。

今日は、「病院建設について」、それと、「重度身体障害者への介護サービスについて」、それと、「町有地の有効活用について」、この 3 点質問いたします。明瞭簡潔な答弁をお願いいたします。

まず、病院建設について、しつこいなと思われるかもしれないんですけども、住民の皆さんに、いまだに私説明できないんですよ、具体的に。ということで、またまたお聞きすることにしました。住民の皆さんも、もう病院はできないんじゃないかとあきらめず、一緒に気持ちで聞いていただきたいと思えます。前回の 3 月の質問では、最初に、病院建設はするのですかと聞きましたら、「公約なので、建設は進めます。」とそういう答弁でした。私は、建設進めますというのは、建設するということだと解釈して、それを前提にして質問して来ましたが、どうもそこですれ違って、何かがすれ違っていているような違和感を感じております。質問の前提になるので、もう一度お聞きしたいと思えますが、町長にお聞きしたいと思うんですけども、病院は建設するのですか。

●議長 (小林幸雄) 横川町長。

■町長(横川正知) 森山議員さんのご質問にお答えします。素直に答弁を理解していただ

平成 30 年第 415 回信濃町議会定例会 6 月会議 会議録(2 日目)

ければ良いのかなというふうに思いますが、建設進めますという事は、建設を目標に進めているという事でございます。以上です。

●議長（小林幸雄） 森山議員。

◆9 番（森山木の実） 建設するんですかと聞いても、建設を進めるということなので、なかなか建設するとおっしゃらない、その理由は为什么呢。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 理由は、まったくありません。建設を進めますということですから。

●議長（小林幸雄） 森山議員。

◆9 番（森山木の実） 「建設をする」ということではないと受け止めて、質問をしたいと思います。では、通告に沿ってお聞きしますが、町長の任期もあと半年になりましたから、この時期で病院建設の形が見えてこないというのは、住民も不安だと思います。前回の質問の時には、町長の答弁では、「その時代の変化、高齢化を踏まえて、初期診療をしっかりとる専門病院や救急病院から自宅に戻れるような対応ができる医療の提供が必要だと思う。」と。そういう答弁をいただいたのですけれども、では、具体的にどうかというと、3月の段階では、まだプロジェクトチームで検討中ということでした。今日の段階でプロジェクトチームの議論はどこまで進みましたか。すみません。もう一つ、プロジェクトチームは7月中に答申を出すと聞きましたが、その議論は尽くされたんでしょうか。二つお願いいたします。

●議長（小林幸雄） 和田副町長。

■副町長（和田勇人） 病院施設のプロジェクトチームの関係につきましては、前々からお話しさせていただいておりますように、昨年7月に第一回の会議を設ける中、この5月で9回を数える会議を持っております。その中で、今町長が答弁申し上げましたように、建設を進めるというような形の中で、一番はあり方検討委員会の答申が、平成27年3月にいただいております。その内容を検証した中で、具体的にそれでは、これからの人口の予測、あるいは患者さんの動向はどうか、あるいはまた規模的に、再度検証しておるところであります。結果的には7月の末を目途に、この会議では、結論めいたことを出したいと考えておりますので、今の段階で、こうだというお話をできるところではありません。

●議長（小林幸雄） 森山議員。

平成 30 年第 415 回信濃町議会定例会 6 月会議 会議録(2 日目)

◆ 9 番 (森山木の実) 今の段階でまだそれということは、7 月末に、出る、出せるんですか。この答申は。

● 議長 (小林幸雄) 和田副町長。

■ 副町長 (和田勇人) はい。ですから、7 月末をめどに、今やっておる最中ですので、出す予定で、今進めております。

● 議長 (小林幸雄) 森山議員。

◆ 9 番 (森山木の実) 何で具体的な情報が出されてこないのか。ちょっと私、不思議なんです。いつも考えるんですが、特に考える、この 2、3 年よく考えるんですけども、大事なものは、物事を決めていくプロセス、それと住民への説明だと思っんです。それがぜんぜんない。ちょっとあるぐらいでほとんどないと。何にも説明なしに「進めます。」とか、「検討中です。」と言われても、住民には何のことかさっぱりわからない。情報公開の姿勢が大事だと思うんですよ。それを踏まえまして、お聞きしますが、規模など話し合っていると、さっきおっしゃいましたけれども、具体的に、今回各論で聞いていきたいと思うんですけども、例えば、病院の規模、ベッド数ですね。それと診療内容については、どの辺まで話し合いでがきていますか。

● 議長 (小林幸雄) 和田副町長。

■ 副町長 (和田勇人) 今検討中でありまして、この 7 月末に、プロジェクト会議での結論を、長に出す中で、これが最終、病院の建設の最終決定では、当然ございません。それを踏まえる中で、長がまた住民の皆さんにも説明を仰ぐ段階をこれから設けるところですし、また、当然議会の皆さんにも、お話をする機会も設けますので、このプロジェクト会議の結論が、いわゆる最終の建設事項ではございませんので、その点だけは、ご確認いただきたいと思ひます。それから、規模の関係でございますけれども、先ほど申し上げましたように、前段階として、あり方検討委員会でベッド数、あるいは診療項目等について検討されておりますので、それを基にして、今現在、先ほど言いました患者の動向、あるいは今後のスタッフ等の確保、それらを加味する中で、今検討しておりますので、今の段階で、これだけの数字というようなことは、ちょっと一人歩きする部分がありますので、お答えできませんので、よろしくお願ひします。

● 議長 (小林幸雄) 森山議員。

◆ 9 番 (森山木の実) 議論の大体の中味で良いんですけども、ベッド数は減らすのか、

平成 30 年第 415 回信濃町議会定例会 6 月会議 会議録(2 日目)

減らすとしたら、例えば診療所程度に減らしてしまうのか、それとも今の半分で維持していくとか、そこらへんもまだ議論されていませんか。

●議長（小林幸雄） 和田副町長。

■副町長（和田勇人） 今現在、一般病床、それから療養病床、合わせて 99 床ございます。あり方検討委員会では 90 床というような検討内容も出ております。それからこの変化といたしますか、昨年 12 月に包括ケア病床も 10 床、信越病院として認定していただいております。それらを踏まえる中で、一般病床、それからその包括ケア病床、それから今後、介護病床につきましては、介護医療院というような形に変更になる予定にもなっておりますので、それらを踏まえる中で、全体的な病床数については、若干減らすような検討はしております。ただ、先ほど議員がご質問したように、半分以上とか、診療所規模とか、まだそこまでの数値は出しておりません。ただ検討の中では、それぞれの収支予測を組む中で、先ほど言いましたように、ベッド数それからスタッフの数等を今後の予想で組んだ時に、どのような経営状態になるか、そこも踏まえて研究をしているところであります。

●議長（小林幸雄） 森山議員。

◆9 番（森山木の実） 検討、まだまだ検討中ということですね。こういうことというのは、「プロジェクトチームというのは、事務的なことを検討している。」と。私、病院の規模というのは、事務的なことではないと思っておりますので、包括ケアシステムの中の重要な部分だと思っているんですね。これを本当は、病院の規模をどうしたいのかというのを、町長、例えば町長ご自身はどうしたいと思っておられるのか、そこもちょっと聞きたいので、お願いいたします。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 私はですね、いくら長といえども、将来に渡って、責任ある方向性を出すにあたっては、しっかりとしたその裏付けを持って、方向を出して行かなければいけないというふうに思っています。今お尋ねのような包括ケアシステムもあれだからということで、じゃあベッド数はいくつで検討してくださいよというようなことで、今お願いしているわけではございませんので、最終的に事務検討している、今プロジェクトの内容をしっかりと最終的な段階での意見集約を、見させていただく中で、しっかりとまた決断すべきところは決断させていただくと。

●議長（小林幸雄） 森山議員。

平成 30 年第 415 回信濃町議会定例会 6 月会議 会議録(2日目)

◆ 9 番 (森山木の実) ビジョンもございませんか。

● 議長 (小林幸雄) 横川町長。

■ 町長 (横川正知) ビジョンというふうに言われますが、それはある面では、先ほど森山議員さんが、前回の時にはこういうふうに言われたよと、こういう部分も含めて、一つの方向性だろうというふうに思っています。

● 議長 (小林幸雄) 森山議員。

◆ 9 番 (森山木の実) 今、ネットで話題になっている、ごはん論法というのをご存知ですか。後でまた説明いたしますが、ストレートにお答えいただきたいと思います。さっき収支予測も、今検討中ということだったのですが、例えば運営経費とか、将来運営の見通しについて、議論していると思うのですけれども、そこは説明できますか。説明お願いいたします。

● 議長 (小林幸雄) 和田副町長。

■ 副町長 (和田勇人) これにつきましては、今の現状、それから先ほど言いました何パターンかの予測でやっておるところであります。病院のいわゆる事務局サイドでの研究、あるいはまた私ども、この病院建設について、またいろいろ有識者等の知恵もお借りしたいというようなことで、それらの意見も聞いている中で、研究しているわけですが、今現在、その具体的な数字については、この場合はどうだというようなことは、ここでお示しするような状況ではございません。

● 議長 (小林幸雄) 森山議員。

◆ 9 番 (森山木の実) いくつか質問したんですけれども、つまり何にも決まっていないと、今この段階で何にも決まっていない。何も住民には説明できない。そういう解釈でよろしいですね。では、ちょっと細かいところ、ちょっと大きい質問なんですけれども、基本構想の策定、いつ着手するのかということだけお聞きいたします。3月の段階では、「まだ時期的にどうのこうの言える段階はでなく、慎重に対応することが必要である。」と、町長のを答弁いただきましたが、3月の段階で、それでしたから、もうちょっと今6月に入って進んでいるのではないかと思うのですが、基本構想の策定については、いつ着手するのかということを、どう議論なさっていますか。

● 議長 (小林幸雄) 横川町長。

平成 30 年第 415 回信濃町議会定例会 6 月会議 会議録(2 日目)

■町長（横川正知） 基本構想の策定の時期等々についての、指示と言いますか、そこまではまだ至っておりません。したがって今、森山議員さんに大変失礼なお答えになるかもしれないんですが、要は議員さんがご指摘になる部分が、非常にやっぱり将来に向けて、難しい課題であるだけに、事務プロジェクトとしても、真剣にご議論をいただいているということは、ひとつご理解いただきたいと思います。基本構想的にということについては、そのプロジェクトの方向性を見、そしてまた裏付けとなる財政もしっかり検証した中で、しかるべき時期に検討するということです。

●議長（小林幸雄） 森山議員。

◆9 番（森山木の実） さっきから伺っていると、もう暗闇の中で、町民の见えない所で、今議論してて、何も決まっていないと、今そういう段階だなあと、私は解釈しました。あと二つ三つちょっと聞いてみたいんですけども、例えば、人口減少していきますよね。それとまたお医者さんの定着というのが、今全国的にもそうですし、信濃町でもその定着というのが難しい。そういうことも含めて、例えば近隣の病院とのすみ分けなどは、考えて議論されていますでしょうか。

●議長（小林幸雄） 和田副町長。

■副町長（和田勇人） 当然、今現在も近隣の病院と連携しておりますし、また、医師の派遣等もお願いしておるのが現状でございます。このプロジェクト会議の中でも、今後、その診療部分について必要なところ、あるいは信越病院としての、この地域の特徴ある病院にしていくには、全部網羅するというわけにはいきませんので、ある程度長野市、あるいは近隣の病院等の連携をする中での医療を研究しております。

●議長（小林幸雄） 森山議員。

◆9 番（森山木の実） 特に隣の飯綱町となんですけれども、飯綱町と信濃町と合わせて 2 万人弱ですよ。この人口で、例えば連携というのは、飯綱町は今、信越病院とは連携はしていないと思うんですけども。書いてないですかね。飯綱病院てね。例えばこの 2 万人の地域の中で、この二つの町立病院で医療をどうしていくかというような議論はしてありますかと、そういうことです。

●議長（小林幸雄） 和田副町長。

■副町長（和田勇人） 今回、このプロジェクト会議の中に、アドバイザーとして、長野保険福祉事務所長さんも同席していただいております。そのような中で、近隣の病院とのすみ分け、あるいは医療の応援体制、これらについてもアドバイスをいただいております。

平成 30 年第 415 回信濃町議会定例会 6 月会議 会議録(2 日目)

ところでありますので、また近隣の病院の考えもありますから、そのへんを調整する中で、今後打ち出していくような予定で組んでおります。

●議長（小林幸雄） 森山議員。

◆9 番（森山木の実） 例えば、その信濃町町長さんと飯綱町町長さんとで、何か話し合うとか、そういうことはしていないですか。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 具体的な項目で、まだ話しているという事はありません。しかし、お互いに自治体病院として、同じような性格の病院なわけですね。それぞれが。したがってそういう中で、何が連携できるのかなというような話があります。それから更にですね、これ3月の時点なんです、これ県の保健福祉事務所に信濃町と飯綱町の、いわゆる病院当事者ですね、ドクター以下、院長だと思いますが、そういう中でも話し合いをされたという福祉事務所長からの報告はもらっております。その中では、これはこういうふうにするどうのこうのは別ですよ。まとめとして、医療関係者の中では、両病院ともある程度ダウンサイジング、つまり規模を若干小さくするのもやむを得ないとする一方で、地域医療の維持に関しては、両病院相互の役割分担や連携の方策を考えるよりは、長野市内の病院との連携を重視していく方が適当という認識が一致しているという。これは医療現場サイドのひとつの方向性が、まとめとして出されているのですが、しかし今、お尋ねのように、行政同士として、どういうふうなことが可能かということは、これからやっぱり必要に応じて話し合う余地はあるかなというふうに思っております。

●議長（小林幸雄） 森山議員。

◆9 番（森山木の実） 例えば、その長野県の地域医療構想というのがありますよね。この県の保険医療計画の一部として位置づけられているものなんです、この地域医療構想との関係については、どうお考えでしょうか。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 地域医療構想についても含めて、プロジェクトには、検討の範囲としてやってほしいという願いはしてあるんですが、ひとつは県の地域医療構想としては、要は、まとめた県の地域医療構想、これ議員さんもきっとご覧になっていると思うんですが、病床数必要量の推計値の意義は、将来の医療提供体制について、医療関係者始め、介護関係者や医療を受ける住民の方々に一緒に考え、行動して行くための参考値であり、病床数の削減を目標といった性格を持つものではないということが、大前提とし

平成 30 年第 415 回信濃町議会定例会 6 月会議 会議録(2 日目)

てうたってあるわけですね。したがって、そういう中で分析、様々な数字も出ているわけですが、それはやっぱりしっかりと参考になるものについては、検討の参考にさせていただくということが、大前提だろうというふうに思っています。

●議長（小林幸雄） 森山議員。

◆9 番（森山木の実） つまり信越病院を考えて行く上で、その長野地域医療構想というのは、その参考にしていくと。そういうことでよろしいですね。

ここまで聞いてきたんですけれども、結局いまだにどうこう言える段階ではないという、3月の答弁のままじゃないかなと思うんですけれども、何かちょっとでも、何て言ったらいいのかな、何も今決まっていけないので、7月末にはきっぱり、このあと2ヶ月ですよね。決められるんでしょうか。答申出せるんですか。

●議長（小林幸雄） 和田副町長。

■副町長（和田勇人） 一定の方向は出す予定で、7月末を目途にやっておりますので、その点ご理解いただきたいと思います。

●議長（小林幸雄） 森山議員。

◆9 番（森山木の実） そうしましたら、今日質問して、検討中とか、まだ決まらないとか、そういうお答えをいただいたベッド数や診療内容について、7月末になったら、住民に周知をすることを要望いたします。よろしいでしょうか。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 本当にこれ、議員さんね、ちょっと考え方が少し違うんかもしれないんですが、今将来の病院をどういうふうにしようかという、まったくその事務的に、白紙で住民の皆さんに出すわけにはいきませんから、しっかりとこういう方向性はどうでしょうかということの、それぞれの分野のプロとして考えて、まずいただいて、それを一つのまとめとして出しましょうと。それは出す段階においては、よりやっぱり具体的な日程も含めて、スケジュール感をもってやらなければいけない話で、まとまったからすぐ出しますかという部分でもないんじゃないかなあと、できるだけ早めにゴーサインで、私がやろうという時が、それはもう本当に、そういうことでやらなければいけないんでしょうけれども、現状の中で、まだ財政も含めて考えた時に、さあさあ明日やるよというような状況でもないのかなと。

●議長（小林幸雄） 森山議員。

◆ 9 番 (森山木の実) 決まったらすぐ出せとは言っていないんですけれどもね。住民に周知をしてほしいと、住民の知らないところで、何かが話し合われているんだなあというイメージですね。私で言えばね。病院に関しては、とにかくホームページで知らせるとか、いちいち町のホームページで知らせるとか、広報しなので知らせるとか、そういう知らせ方しかないのかもしれないんですけれども、いちいち毎日町のホームページを開ける人というのは少ないですし、広報しなのや議会だよりは、ちょっと反省もあるんですけどね、細かく読まない人の方が多いです。でも、一緒に入ってくる A4 のチラシ、あれは皆さんよく読んでるので、そういう知らせ方、とにかく住民の人に知らせたいという気持ちを持って、周知させていってほしいと思います。次も、先ほど出馬表明をなさったので、次も横川町政になると、かどうかはわからなくてもですね、とにかく次の 4 年に、きちんとそういうことを繋いでいっていただきたいという要望をいたしました、次の質問に移ります。

次は重度身体障害者への介護サービスについてお聞きします。現在、ALS の患者さんと町との間で裁判中ですので、この裁判にあまりこの差し障りがあるといけないので、その影響を及ぼさない範囲で質問いたします。この ALS という病気ですね。つまり筋萎縮性側索硬化症と、あまり知られていない病気なので、ちょっと簡単に説明しますと、脳や末梢神経からの命令を、筋肉に伝える運動ニューロンという運動神経細胞があるんですが、それが侵されてしまう病気です。これは難病のひとつ、原因はまだ不明で、誰にでも起きうる病気だそうです。いつ何時自分にも、私にも、起こるかもしれない、そういう病気です。私たちが手足とか顔など、自分の思うとおりに体を動かそうとする時に、この必要な筋肉ってありますよね。これを随意筋と言います。これ学校で習った記憶があるんですが、この随意筋を動かすのが運動ニューロン。私たちが歩こうとか、食べ物を飲み込もうとか、痰がからんじやったから、ウン (咳払いをする) と吐こうとか、そういう時にその脳の指令が運動ニューロンによって筋肉に伝わります。それで歩いたり、飲み込んだり、痰を吐き出したりできるわけですね。思い通りの体の動き、でもこの運動ニューロンが侵されて、自分の思い通りの動きができなくなる病気を ALS と言います。信濃町の患者さんの今の状態は、発症から 10 年、現在は一人では立つことも、歩くことも、起き上がることもできません。声も出るんですけれども、ウツというぐらいです。ただ ALS では知覚神経、痛い、つねられて痛いとか、自立神経は侵されないもので、視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚は障害は出ていません。それと記憶と知性をつかさどる神経にも原則として障害は見られません。人からつねられたりした時に、私達は痛いと感じて、すぐに手を引っ込めようとしていますよね。でも患者さんは痛くても、手を引っ込めることができません。自分が蚊に刺されていても、何もできず、かゆくても声では人に伝えられません。困るのが、例えば痰がのどに詰まっても、自力で出すことができず、それを人に伝えることができず、窒息の危険があります。また何か身体的に大変なことが起きてても、誰かに知らせることができないなど、毎日 24 時間命の危険と隣り合わせでいます。患者さんとしては、1 日 24 時間、の介護支給を申請していますが、町

平成 30 年第 415 回信濃町議会定例会 6 月会議 会議録(2 日目)

としては1日9時間半ですね。1日9時間半程度の介護支給を決定しました。質問なんですけれども、何で1日に24時間の介護ではなく、1日に9時間半なのでしょう。9時間半の根拠はなんなのか、詳しく説明をお願いします。

●議長（小林幸雄） 松木住民福祉課長。

■住民福祉課長（松木哲也） 今回ALSに関して、裁判というか訴えがありまして、その関係の部分についてのご質問という事でございます。今回町で支給決定を行ったのは、3月6日に決定通知を行いまして、月294時間ということでございます。今議員おっしゃいましたように、約1日平均9時間越えの時間になるものでございます。支給決定をさせていただいた根拠になりますけれども、町におきましても今まで、こういった事例がありませんでしたので、そういった研究をさせていただいて、町の支給ガイドラインというものが、昨年の9月にできまして、その中で決定をさせていただいたと。1日9時間でございますけれども、日中の時間帯を除いた朝方と夕方夜間の時間帯、深夜はお休みになられているというようなこともありますので、そういった時間を見守らせていただく重度訪問介護という形での支給となっております。日中につきましては、比較的そういった朝のトイレの介助だとか、食事等の介助というものが日中につきましては、時間を除いたものでございます。そしてまた、日中につきましては、介護保険、医療保険等のサービスの提供が受けられるということで判断をさせていただいております。以上です。

●議長（小林幸雄） 森山議員。

◆9番（森山木の実） 新聞記事によれば、町側としては、「患者さんの状況を調査した上で、24時間の支給は必要ないと判断した。」と、コメントしたと新聞で書いてありましたが、患者さんの状況を調査というのは、どんな調査をなさいましたか。

●議長（小林幸雄） 松木住民福祉課長。

■住民福祉課長（松木哲也） 当然ですね、こちらの支給決定という前には、患者から支給が必要だというような申請書が上がって来るわけでございます。それを踏まえまして、会議を持たせていただく等をさせていただいておりますし、その計画を立てていただく方との相談をさせていただいた中で、この決定を町ではさせていただいたという事でございます。

●議長（小林幸雄） 森山議員。

◆9番（森山木の実） 患者さんの状況というのは、つまり患者さん本人の状況ではなか

平成 30 年第 415 回信濃町議会定例会 6 月会議 会議録(2 日目)

ったということですね。見たというのは。患者さん本人の状況を見て決定したわけではないということですね。

●議長（小林幸雄） 松木住民福祉課長。

■住民福祉課長（松木哲也） 患者さんがどういう状況にあるかというのは、ご自宅に今いらっしゃいますので、そちらのほうの状況は見させていただいております。去年の話でございますけれども、決定前にですね。それで決定をさせていただいたという事がございます。

●議長（小林幸雄） 森山議員。

◆9 番（森山木の実） 例えば、その時トイレはどうでしたでしょうか。介護の人は誰が介護していましたでしょうか。痰の吸引はどうしていましたでしょうか。他にどれだけ大変なことが見て取れましたか。

●議長（小林幸雄） 松木住民福祉課長。

■住民福祉課長（松木哲也） その際には、私も立ち会ったわけではございませんので、聞いた話でございますけれども、会議等の中ですので、そういったサービスの提供の場を見たということではないというふうに思っております。

●議長（小林幸雄） 森山議員。

◆9 番（森山木の実） あまり突っ込みますと、裁判とちょっとどうなるか、私にはわからないので、あまりつつこむのはやめますけれども、その9時間半の根拠になる現状を、町として把握するためには、患者さんの状態をしっかりと見ないと、把握できないんじゃないかと思うんですね。町長、副町長に伺います。患者さんや患者さんの家族、また支援者から現状を見てほしいと言われましたか。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 私自身は、直接そういうお言葉と言いますか、聞いてはおりません。

●議長（小林幸雄） 和田副町長。

■副町長（和田勇人） 患者さん、それから家族の方からのお話は受けておりません。

平成 30 年第 415 回信濃町議会定例会 6 月会議 会議録(2 日目)

●議長（小林幸雄） 森山議員。

◆9 番（森山木の実） 今のごはん論法というんですよ。支援者からはどうでしたか。ぜひ患者さんの様子を見てほしいと言われませんでしたか。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 私自身はそういうふうな要請と言いますか、お話は頂戴しておりません。

●議長（小林幸雄） 和田副町長。

■副町長（和田勇人） はい。私は支援している方からは、見ていただきたいというようなお話はありましたけれども、裁判等の関係もございますので、お答えはしませんでした。

●議長（小林幸雄） 森山議員。

◆9 番（森山木の実） やっぱこのALSの患者さんに関しては、頭の中と書類等だけで、判断はできないと思うんですよね。私が見たところでは、本来半日は見ないと、患者さんの状態はわからないと思います。他にもお聞きしたいんですけれども、裁判中ですし、質問はこれくらいにしておきますが、町長、副町長、それと担当者ですね、ぜひ患者さんの状況をしっかり見ていただきたい。お忙しいとは思いますが、最低でも3時間、理想的には半日見ていただければと思います。痰の吸引からトイレの介助、日中もトイレに行かれますしね、何て言ったらいいのか、やさしい福祉の町になれば良いなあと思ひまして、要望いたしまして、次の質問に移りたいと思います。

午前中、次は町有地の有効活用についてお聞きいたします。午前中の質問の中で、町で住宅を建てて、10年は家賃をいただいたりという質問があり、答弁も、答弁でしたね、答弁がありました。私もこの土地の有効活用で、町に来る人が増えれば良いなあと思っております。この町有地の有効活用と言ったこの町有地は、柏原の信号近くの町有地です。去年の12月の一般質問でも聞きましたが、昨年度民間業者の方が、あの土地を借りて、アパート建設をする計画がありました。今はあの土地はどうなっていますか。

●議長（小林幸雄） 高橋総務課長。

■総務課長（高橋博司） 議員のご質問の地番の土地につきましては、現状は空き地になっておりまして、草刈り等の管理をしております。

平成 30 年第 415 回信濃町議会定例会 6 月会議 会議録(2 日目)

●議長（小林幸雄） 森山議員。

◆9 番（森山木の実） 今後の見通しはどうなっているでしょう。

●議長（小林幸雄） 高橋総務課長。

■総務課長（高橋博司） 当該土地につきましては、普通財産でございまして経済的な効用を発揮させるという内容でございますので、例えば、平成 29 年にも近隣の施設の改修工事の資材置き場等でも貸付をおこなっております。そういう意味で貸し付けやまた、適正な価格での購入の申し出等があった場合には、対応してまいりたいと考えております。

●議長（小林幸雄） 森山議員。

◆9 番（森山木の実） あそこは信濃町の一等地ですよ。私そう思っているんですけども、あのままにしておくのはもったいないので、ぜひ提案をしたいと思うんですけども、今度は公募しましてね、借りられることを公表して、積極的に公募してみるというのはいかがでしょうか。あの土地を活用する方を公募してみるということは、お考えになっていませんか。

●議長（小林幸雄） 高橋総務課長。

■総務課長（高橋博司） ご指摘の土地につきましては、昨年も町の移住支援のサイトの方に、賃貸と売買情報を掲出をしたところでございますが、その後の経過もありまして、現状では掲出をしております。

●議長（小林幸雄） 森山議員。

◆9 番（森山木の実） 個人的な希望なんですけれども、あそこに私はもう一回、アパートなり、住宅なり、賃貸ですね。割と何て言うんですか、単身者向けにアパートができればいいなと思っているわけです。ちょっとやめちゃったのは残念なんですけれども、例えば 12 月にも言いましたけれども、看護師さんの住宅だとか、それから町に初めて来た若い人とか、それから単身赴任で、ここに来ておられる方が、まず住むところがなくて、空き家なかなか借りられないんですってね。そういう方達のためにも、あそここの場所に建てられたらいいなど。特に補助金がありましたよね。民間住宅建設補助金、民間賃貸住宅建設補助金でしたか。それを使えば、あんまり負担が多くなく建てられると思うので、私はあそここの土地は、そうやって活かしたらどうかと思うのですけれども、それに、そういう考えはございませんか。

●議長（小林幸雄） 高橋総務課長。

■総務課長（高橋博司） 民間賃貸住宅の家賃の補助金を、建設補助金を使えるかどうか別なんですけれども、定住促進という立場で申し上げますと、町有地なりを有効活用していただいて、移住先の住宅を建設していただくというのは、非常にありがたいことだと思っております。

●議長（小林幸雄） 森山議員。

◆9 番（森山木の実） 私もそう思うんですよ。あの空地を見るたびに、ああもったいないと思っているわけです。もし、もしですよ。別物と今、おっしゃいましたけれども、補助金も使って建てられるようでしたら、手続きがなんかとっても煩雑だということを聞きました。難しいというのが、素人には。ですから、もうちょっとすんなりできるような、お知らせをしたりとか、教えてあげたりとか、応募するのを躊躇しないように、もっと簡素化したらどうかと、手続きを簡素化したらどうかと思うんですけれどもね。それは、今の質問ではないので、答えなくていいのですけれども、もし、この1階など、バリアフリーにしまして、障害のある人も自立して暮らせるようになったらいいなと期待しております。それは私が個人的に期待しているだけですから、別の話としまして、町有地の有効活用は必要だとも思います。これは小さな事業かもしれないんですけれども、ぜひ考えてみていただきたいと思うんですが、どうでしょうか。

●議長（小林幸雄） 横川町長。

■町長（横川正知） 今、ご提案も含めて、意見と言いますか、ご質問いただいているんですが、一つの考え方かなというふうに思います。そしてまた、あそこが本当に一番良い場所かどうかは、ともかくとして、町有地も各地にあるわけでありますので、そういった町有地、いままでも、何と言いますか、販売も含めて、対応をさせてきていただいているということは、私も承知しているのですが、なかなか思うように進まないというのが現状であります。そういう中で、改めてどういう方向性が良いのか、今議員さんが言われたようなことも含めて考えてみたいと思うんです。ただあの何て言いますかね、町が、町が建設するとかというのは、まさにそれは後々のいろんな状況もあって、今の民間賃貸住宅の補助金制度を立ち上げたということでありますので、そういった事では、かなう皆さん方がおいでなのかどうなのか、また検討してまいりたいというふうに思います。

●議長（小林幸雄） 森山議員。

平成 30 年第 415 回信濃町議会定例会 6 月会議 会議録(2 日目)

◆9 番 (森山木の実) 私、民間賃貸住宅建設補助金制度というのは、私はとってもいいと思っているんです。私だって、何でも反対ばかりしているわけではないです。あれはとってもいいシステムだし、負担も何て言うんですか、半々という感じで、家賃は入るし、土地の賃借料も入るし、わりと良いなと思っているので、これはぜひ進めていただきたいというのは思っています。人口がそんなに爆発的に増えるということは、もうちょっとしばらくの間は無理かもしれませんが、ここへ来て、いい所に来たなあと言って、このアパートからまたどこか家建てて、信濃町に住んでくれる人がいればいいなと思うわけなんです。でね、なんであそこが一等地かと申しますと、都会から来た人って、意外と車を運転できない人って、ときどきいるんですよ。だけどあそこだったら、駅に歩けるし、バスも便利ですし、いいなと思って、それであそこの土地を有効活用しませんかとお伝えしました。ぜひ、町長もちょっと考えてくださるそうですから、ぜひあそこの土地を有効利用、有効活用していただきたいと要望しまして、私の質問を終わります。

●議長 (小林幸雄) 以上で森山木の実議員の一般質問を終わります。この際、2 時ちょうどまで暫時休憩といたします。

(午後 1 時 47 分)